

7. 計画の基本方針

本編 p.33~35

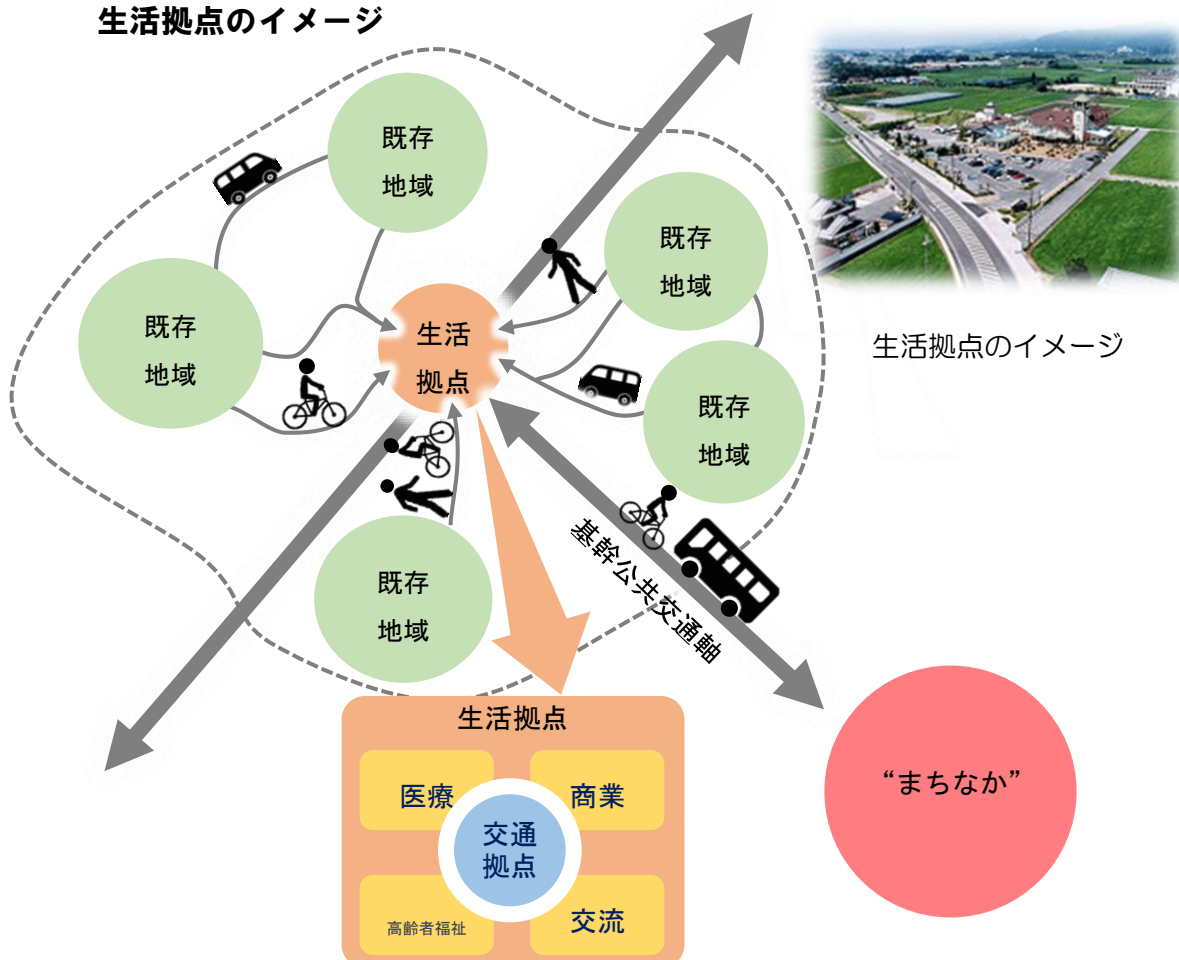
各対象学区の課題や計画の基本理念（案）、目指すべきまちづくり像（案）を踏まえ、郊外部の活性化に係る施策の柱を以下に掲げます。

- 施策の柱1 生活拠点の形成
- 施策の柱2 交通環境の充実
- 施策の柱3 地域資源を活かした産業の支援

施策の柱1 生活拠点の形成

- 区域内の地域が分散し、医療、高齢者福祉、商業等の徒歩圏人口カバー率が低いなど生活サービス機能が不足する区域では、地域の生活利便性向上や地域コミュニティの維持を支える生活拠点の形成を目指します。
- 生活拠点は、“まちなか”等と繋がる基幹的公共交通の沿線に、区域に不足する生活サービス機能等を集約させることで、高齢者をはじめとするすべての人が生活しやすい環境を創出するものです。区域内地域から生活拠点への多様なアクセスを考慮し、拠点内にはバス、自転車等に対応した交通拠点を設置します。

生活拠点のイメージ



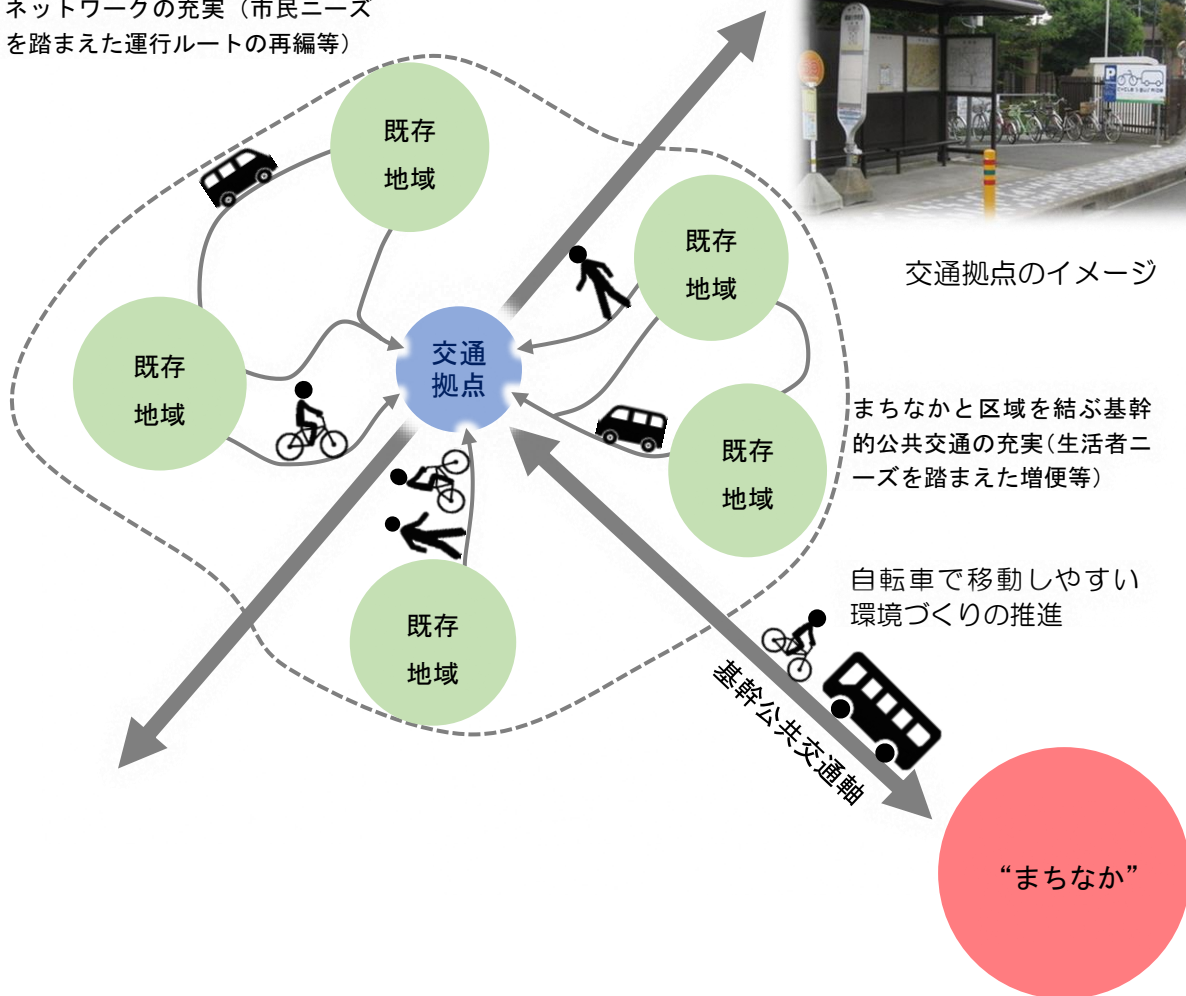
生活拠点のイメージ

施策の柱2 交通環境の充実

- “まちなか” にアクセスするほか、区域間の連携を図る基幹的公共交通軸の徒歩圏人口カバー率が低い区域では、基幹的公共交通や“まめバス”等の補完公共交通の充実（生活者のニーズに応じた路線の見直し等）を図り、区域内や区域と“まちなか”等を結ぶ利便性の高い公共交通の実現を目指します。
- また、エリアが広範囲にわたる区域では、自転車と基幹的公共交通の乗り継ぎ利便性を高める交通拠点（サイクル&バスライド）を設置します。
- このほか、比較的コンパクトな都市構造を有する草津市の特性や草津市の政策である健幸都市づくりの推進、低炭素社会の実現に向けた環境保全の観点等を踏まえ自転車等で移動しやすい環境づくりを推進します。

交通環境の充実のイメージ

まめバス等による区域内公共交通ネットワークの充実（市民ニーズを踏まえた運行ルートの再編等）



施策の柱3 地域資源を活かした産業の支援

- 琵琶湖をはじめ各学区に点在する様々な地域資源を活かし、政策としての健幸都市づくりの推進や生活・観光等に係る社会的ニーズに対応した新たな魅力づくりを推進します。
- 琵琶湖や琵琶湖にまつわる様々な資源のほか、農業、水産業、歴史・文化・体験等の観光資源などの様々な地域資源の関連性や事業者ヒアリングの結果等を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討します。

地域資源を活かした産業の支援のイメージ（例えば、「あおばな茶」の場合）

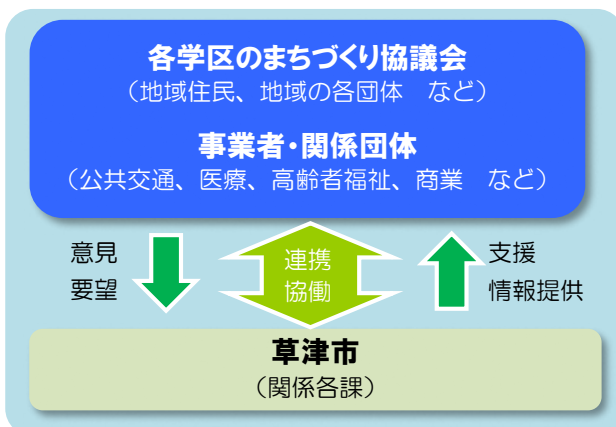


8. 事業化に向けた検討体制

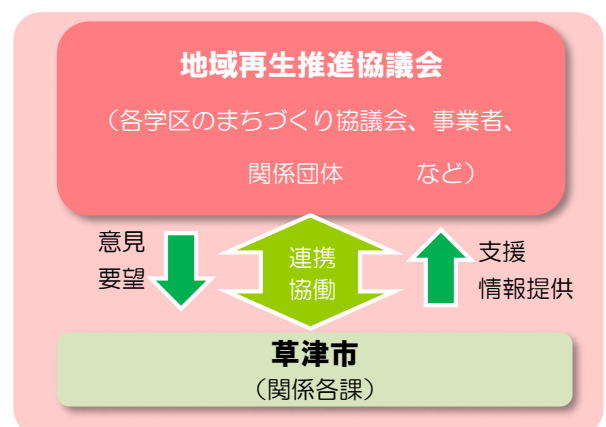
本編 p.57

本計画は、地域再生のためのまちづくりの基本方針を示すものであり、その実現に向けては、以下のような体制のもとに、地域や事業者、関係団体、行政等がそれぞれの役割を果たし連携する中で取組みを検討していくものとします。各学区での検討体制として、地域住民や各団体、関係事業者との連携・協働により地域再生の推進を図ります。また、全体での検討体制として、各学区のまちづくり協議会や事業者、関係団体等で構成された地域再生推進協議会を組織し、各学区における検討状況の情報共有等を図り、より一層の地域再生の推進を図ります。

<各学区での検討体制>



<全体での検討体制>



9. 各学区のまちづくりの方向性と将来ビジョン

本編 p.36～56

<常盤学区>

①まちづくりの方向性

①-1.生活拠点の形成と交通環境の充実

- ・今後の高齢化の進展や日常生活サービス機能が不十分な現状を踏まえ、より身近なところで様々な生活サービスが享受できる生活拠点の形成を目指します。
- ・多様な交通手段によるアクセス利便性を高める交通拠点の形成や公共交通の充実を目指します。

①-2.地域資源を活かした産業の支援

- ・琵琶湖を背景とした様々な地域資源の関連性や社会的ニーズ等を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討します。

地域の現状・課題に係る評価		現状課題に関連する施策の柱と方向性	
高齢化率	△	1 生活拠点の形成	重点 取組み
医療	△		
高齢者福祉	△		
商業	×	2 交通環境の充実	重点 取組み
基幹的公共交通	△		
地域資源の活用の可能性	大	3 地域資源を活かした産業の支援	重点 取組み

※【高齢化率】 「○」市街化調整区域の平均値より低い項目、「△」市街化調整区域の平均値より高い項目
 【医療・高齢者福祉・商業・基幹的公共交通】「○」徒歩圏人口カバー率の平均値を上回る項目（平均値と同じ場合を含む）、「△」徒歩圏人口カバー率の平均値を下回る項目、「×」徒歩圏人口カバー率が「0%」の項目
 【地域資源の活用の可能性】「大」豊富に存在し、活用の可能性が高い。「有」存在するが、活用には検討が必要。

②将来ビジョン

②-1.生活拠点の形成

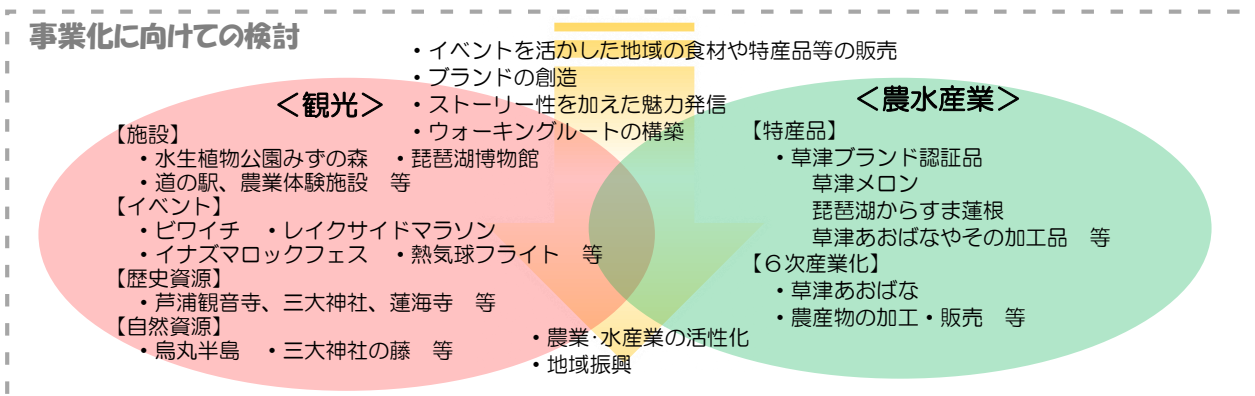
- ・浜街道沿線に位置する一団の低未利用地を活用した生活拠点の形成
- ・生活拠点内への医療、高齢者福祉、商業施設等の誘致やアクセスの確保

②-2.交通環境の充実

- ・バス、自転車等でのアクセス利便性を高める交通拠点の形成
- ・生活者のニーズに応じた基幹的・補完公共交通の充実（路線の再編等）
- ・歩行者の安全性向上

②-3.地域資源を活かした産業の支援

- ・地域資源（観光、農業）を組み合わせることで地域活力向上を推進します。



※事業化に向けての検討内容は、将来的に普及、拡大されることを期待したものです。地域の中で、今後議論の対象となる可能性のあるものを記載しています。

<笠縫東学区>

①まちづくりの方向性

①-1.生活拠点の形成と交通環境の充実

- ・公共交通の充実や自転車が利用しやすい環境整備等を行うことで、更なる生活利便性の向上を目指します。

①-2.地域資源を活かした産業の支援

- ・健康づくりへの関心の高まり等の社会的ニーズや地域資源の関連性を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討します。

地域の現状・課題に係る評価		現状課題に関連する施策の柱と方向性		
高齢化率	○	→	1 生活拠点の形成	
医療	○			
高齢者福祉	○			
商業	○			
基幹的公共交通	×	→	2 交通環境の充実	重点 取組み
地域資源の活用の可能性	有	→	3 地域資源を活かした産業の支援	要検討

- ※ 【高齢化率】 「○」市街化調整区域の平均値より低い項目、「△」市街化調整区域の平均値より高い項目
 【医療・高齢者福祉・商業・基幹的公共交通】「○」徒歩圏人口カバー率の平均値を上回る項目（平均値と同じ場合を含む）、「△」徒歩圏人口カバー率の平均値を下回る項目、「×」徒歩圏人口カバー率が「0%」の項目
 【地域資源の活用の可能性】「大」豊富に存在し、活用の可能性が高い。「有」存在するが、活用には検討が必要。

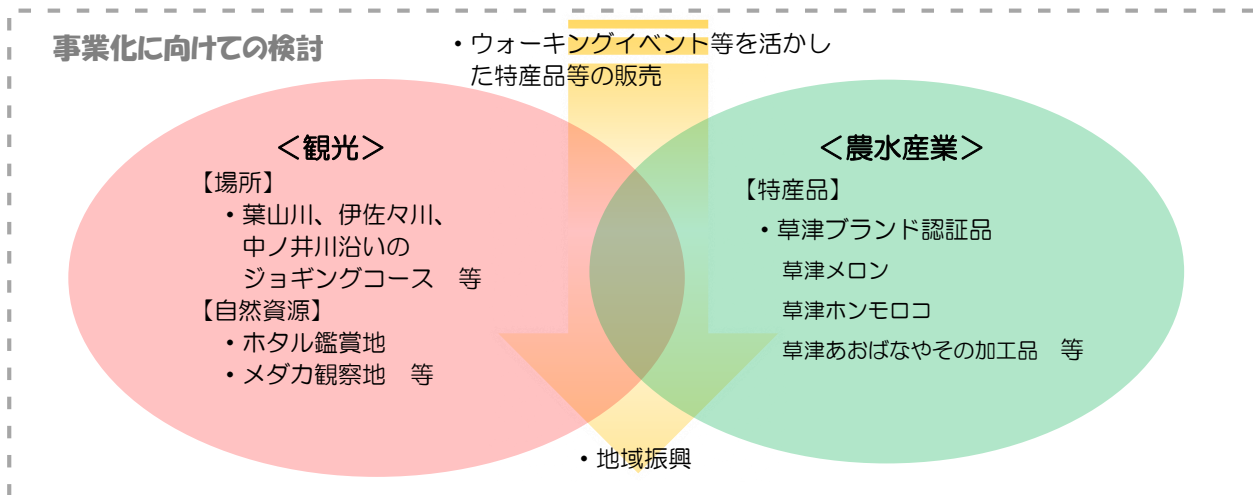
②将来ビジョン

②-1. 交通環境の充実

- ・生活者のニーズに応じた基幹的・補完公共交通の充実（路線の再編等）
- ・歩行者・自転車交通の安全性向上や利用促進

②-2.地域資源を活かした産業の支援

- ・地域資源（観光、農業）を組み合わせることで地域活力向上を推進します。



※事業化に向けての検討内容は、将来的に普及、拡大されることを期待したものです。地域の中で、今後議論の対象となる可能性のあるものを記載しています。

<笠縫学区>

①まちづくりの方向性

①-1.生活拠点の形成と交通環境の充実

- ・公共交通の充実や自転車が利用しやすい環境整備等を行うことで、生活利便性の向上を目指します。

①-2.地域資源を活かした産業の支援

- ・「あおばな」等の農業関連資源の付加価値や社会的ニーズを考慮し、「草津あおばな館」を拠点とした実現性の高い地域振興策を検討します。

地域の現状・課題に係る評価		現状課題に関連する施策の柱と方向性	
高齢化率	△	1 生活拠点の形成	重点 取組み
医療	○		
高齢者福祉	△		
商業	×	2 交通環境の充実	要検討
基幹的公共交通	○		
地域資源の活用の可能性	大	3 地域資源を活かした産業の支援	重点 取組み

※【高齢化率】 「○」市街化調整区域の平均値より低い項目、「△」市街化調整区域の平均値より高い項目
 【医療・高齢者福祉・商業・基幹的公共交通】「○」徒歩圏人口カバー率の平均値を上回る項目（平均値と同じ場合を含む）、「△」徒歩圏人口カバー率の平均値を下回る項目、「×」徒歩圏人口カバー率が「0%」の項目
 【地域資源の活用の可能性】「大」豊富に存在し、活用の可能性が高い。「有」存在するが、活用には検討が必要。

②将来ビジョン

②-1.生活拠点の形成

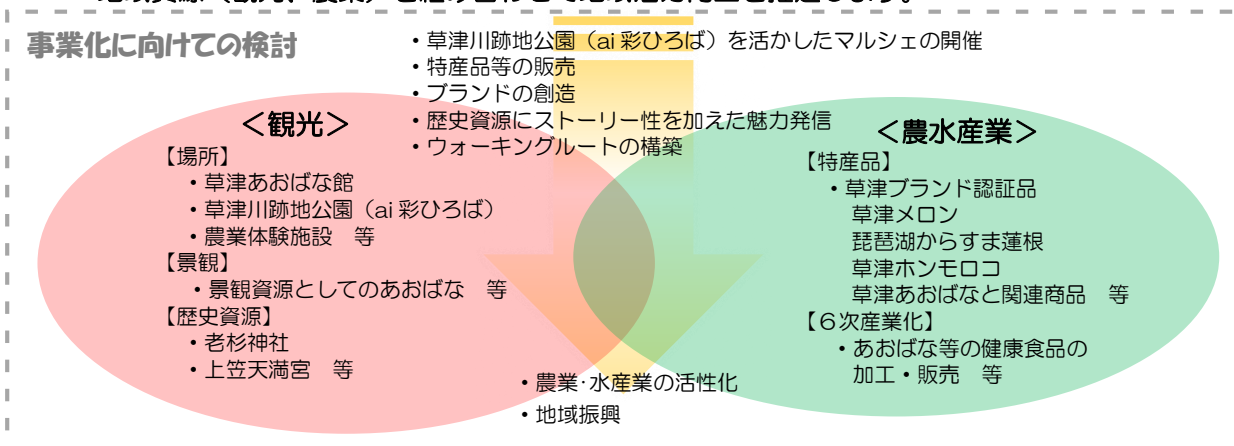
- ・浜街道沿線に位置する一団の低未利用地を活用した生活拠点の形成
- ・生活拠点内への商業、高齢者福祉施設等の誘致やアクセスの確保

②-2.交通環境の充実

- ・基幹的公共交通と自転車等の乗り継ぎ利便性を高める交通拠点の形成
- ・生活者のニーズに応じた基幹的公共交通の充実（路線の再編等）
- ・歩行者・自転車交通の安全性向上

②-3.地域資源を活かした産業の支援

- ・地域資源（観光、農業）を組み合わせることで地域活力向上を推進します。



※事業化に向けての検討内容は、将来的に普及、拡大されることを期待したものです。地域の中で、今後議論の対象となる可能性のあるものを記載しています。